

共働きの子育て

「共働き子育て」という選択

これだけ共働きがふえても、まだ「子どもが小さいうちは育児に専念したほうがいい」と意見する人がいます。でも家族のスタイルは、夫婦の考え方、仕事の状況、子育て環境、経済的な事情などから、自分たちで決めるものです。

昭和の時代、特に高度経済成長期には、専業主婦家庭が理想的ライフスタイルと考えられたこともありましたが、そのころとは、女性の生き方、男性の雇用状況、地域の子育て環境などがすっかり変わりました。今は、共働きで子育てをする人がふえている時代です。なぜでしょうか。

何より、経済的な面を考えたら、ダブルインカムが暮らしのほうに安心です。将来の住宅費や教育費を視野に入れている人は多いと思います。実際、いったん仕事をやめても、子どもが学齢期になると家計のた

めに働き始めるママは多いのですが、どうしてもパートタイマーなどの働き方が多くないので、所得はなかなか元の水準になりません。今、安定した職を得ている人は、育児休業等をとって働き続けるほうがお得ということになります。

私が代表を務める「保育園を考える親の会」の会員アンケートで「共働きのメリット」を聞いた結果は、次のとおりでした。

- 第1位 経済的な安定
- 第2位 夫婦が社会人として自立して対等であること
- 第3位 夫婦の相互理解、お互いの尊重ができる
- 第3位 夫婦で家事・育児の協力ができる、夫も自立する
- 第5位 自由に使えるお金がある

夫婦が尊重しあい、自由に生きたいと願



普光院 亜紀
保育園を考える親の会代表

【ふこういん あき】出版社在職中に2回の育児休業を取り、2人の子どもを保育園に預けて働く。保育園に子どもを通わせる保護者のネットワーク「保育園を考える親の会」の代表。保育、仕事と子育ての両立の分野の執筆・講演活動を行うほか、国や自治体の保育・子ども施策に関わる委員会等の委員も務める。著書に『共働き子育て入門』（集英社新書）、『変わる保育園』（岩波ブックレット）などがある。横浜創英大学・上越教育大学非常勤講師。

う時代になつていると思います。

会員アンケートには表れませんでした。母親だけで担う子育てのたいへんさもあるのではないかと思います。「保育園を考える親の会」の会員の間でも、「育児休業中一日も早く復帰したかった」「保育園があるからこそ私は子どもに笑顔でいられる」という声がありました。子どもに愛情がないからではありません。そもそも、マンション住まいなどの核家族、地域関係も希薄といった環境で母子が孤立している状態そのものが不自然なのです。大昔から人は大家族や地域の集落の中で子育てをしてきたのですから。

そこでは、周囲からの手助けも多く、子どもの成長の喜びやたいへんさを分かち合いながら子育てができていたと思います。今、地域にさまざまな子育て支援の場がつけられるようになってきているのも、家庭での子育ての現状を理解して、地域で支えな

表1 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の目次の比較

幼稚園教育要領	保育所保育指針
第1章 総則	第1章 総則
第1 幼稚園教育の基本	1 趣旨
第2 教育課程の編成	2 保育所の役割
第3 教育課程に係る教育時間の終了後等を行う教育活動	3 保育の原理
第2章 ねらいと内容	4 保育所の社会的責任
健康	第2章 子どもの発達
人間関係	1 乳幼児期の発達の特性
環境	2 発達過程
言葉	第3章 保育の内容
表現	1 保育のねらいと内容
第3章 指導計画及び教育課程に係る教育時間の終了後等を行う教育活動などの留意事項	(1) 養護に関わるねらい及び内容
第1 指導計画の作成に当たっての留意事項	生命の保持
第2 教育課程に係る教育時間の終了後等を行う教育活動などの留意事項	情緒の安定
	(2) 教育に関わるねらい及び内容
	健康
	人間関係
	環境
	言葉
	表現
	2 保育実施上の配慮事項」
	第4章 保育の計画及び評価
	1 保育の計画
	2 保育の内容の自己評価
	第5章 健康及び安全
	1 子どもの健康支援
	2 環境及び衛生管理並びに安全管理
	第6章 保護者に対する支援
	1 保育所における保護者に対する支援の基本
	2 保育所に入所している子どもの保護者に対する支援
	3 地域における子育て支援
	第7章 職員の資質向上
	1 職員の資質向上に関する基本事項
	2 施設長の責務
	3 職員の研修等

ればならないと考えられているからなので
す。
会員アンケートでは、「共働きのデメリット」も聞いています。

- 第1位 毎日が忙しくてバタバタしている
- 第2位 夫婦のコミュニケーションや配慮が不足しがち
- 第3位 子どもとの時間が少ない、せかしてしまつ
- 第4位 支出もふえる
- 第5位 家事がおろそかになる

保育園保育つて、ここがいい

「忙しい」というのは、みんなが感じているたいへんさだと思えますが、ほかはメリットと表裏一体のこともありますね。でも、工夫次第でデメリットは減らすことができます。

都市部では、ここ数年、急激な共働き化が進み、保育園が極端に足りなくなっています。でも、自治体は待機児童対策を頑張ってくれているはずですので、今後はだんだん入りやすくなるのではないかと期待

しています。

プロの保育士さんが一緒に子育てをしてくれるとは、本当に心強いものです。

親が助かるだけでなく、子どももお友だちがいて、玩具や絵本もたくさんあって、お庭もあって、いっぱい遊べる保育園が大好きです。実は、お友だち、落ち着いて遊べる環境、十分な外遊びなどは乳幼児期の子どもの発達にとって重要なものなのですが、家庭ではなかなか同じ環境はつくれません。

また、保育園には、食事、トイレ、お昼寝、おやつといった生活メニューがあり、子どもたちはその中で生活習慣も身につけます。離乳食、トイレトレーニング、着替えからお箸の持ち方まで、「全部保育園で教わりました」というのが多くの保育園家庭の感想でしょう。

「幼稚園は教育機関だけれど、保育園は児童福祉施設だから教育はやってないの？」という疑問もあるでしょう。

大丈夫、保育園でも教育は行っています。幼稚園、保育所には、学校の学習指導要領にあたる「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」があります。その内容は表1のとおりで、教育の部分は共通の内容になっています。

また、これらの教育内容は、小学校の国語や算数のように授業を行うのではなく、子どもが主体的な遊びの中で体験して身につけていくものとされています。というの

も、乳幼児期には、子どもが夢中で遊ぶ中で、身体能力から感性、言葉、考える力などの心身の機能が相互に触発しあいながら発達するからです。

教育と言うと、教室で先生が教えてくれるものと考えている人も多いのですが、それは間違い。体育指導をやっていない幼稚園・保育園のほうがやっている園よりも園児の運動能力が高かったという研究結果もあります。最近では、習い事が流行しているので、文字や数のワークや体育トレーニングなどを保育園や幼稚園に望む人もいるでしょう。でも、園で子どものようすを見てください。子どもたちは、遊びの中でたくさんのことを学んでいます。言葉や文字、数の概念も、好きなことに集中するからこそ自然に身につきます。

みなさんは、仕事をする中で、学校の勉強以上に社会人に求められるものがあると感じたことはありませんか。たとえば、「人間関係力」。この「人間関係力」は自己肯定感、他人への共感性などの上に築かれます。そのためには、子ども時代に、けんかも含め、仲間とかかわり合って遊ぶ体験を重ねることがとても重要です。保育園・幼稚園の教育で遊びが重視されるのには、そんな背景があることも知っておきましょう。

両立の考え方

前述の会員アンケートにもあったように、共働き子育ての一番の悩みは、忙しすぎる

こと。職場での忙しき、家での忙しきがせめぎあつてしまう現実をみんながかかえています。

共働き子育てにはいろいろなピンチがありますが、うまく回らないときは、次のことを再検討する必要があります。

- ①夫婦の協力体制を組み直す
- ②短時間勤務制度などを利用して働く時間を短くする
- ③担当業務について上司と相談する
- ④延長保育を利用する
- ⑤祖父母、ベビーシッターやファミリー・サポート・センター、病児保育、家事援助などの助っ人を頼む

子どもとの時間を長くする方向への調整が必要なこともあれば、あるいは仕事の時間を長くする方向への調整が必要なこともあります。どちらにしても、両立生活にはバランスが必要です。無理をしすぎて親が体をこわしたら、全部の計画が崩れてしまいます。仕事の状態、子どもの状態、自身自身の状態を見て、危ないと思ったら早めに周囲にSOSを出します。周囲とは、夫あるいは妻、上司、保育園、祖父母、その他の有料サービスなどです。

職場の理解をどう得るか

両立する働き方では、短時間勤務制度を利用するにしても定時退社をするにしても、

どうしても周囲よりも働く時間が短くなりがちです。子どもの病気で突然仕事を休むときは、同僚や上司に迷惑をかけるのは避けられません。

地方公務員の職場では、育児休業制度が普及し両立職員も多いので、こういったことで肩身の狭い思いをすることは、民間企業ほどは多くないのかもしれませんが。それでも、いやそうだからこそ、周囲の理解は大切です。

周囲に理解されるために重要なこと、それは言うまでもなく、ふだんからマジメに働く姿勢を見せるということです。「子どもがいるんだから、できなくて当たり前」という態度になつていないか、ときどき自己点検をしましょう。

できないものではないし、子どもの病気が突然やってきましたから、そんなときは、周囲に詫びて、フォローをお願いするしかありません。あなたが、いつも責任を果たそうと努力していることが周囲に伝わっていれば、快く助けてくれる人が大半だと思います。

それでも意地悪な目で見たり、嫌みを言ったりする人がいたら、その人はあなたの仕事ぶりが不満なのではなく、自分が忙しすぎるとか、女性が働くことに賛成できないとか、仕事も子どもも手に入れていることが妬ましいとか、自分自身に原因をかかえているかもしれません。

そんな相手に対しては、できるときに仕



事を手伝ったり、意見に耳を傾けたり、逆に自分の悩みも聞いてもらったりすると関係がよくなることもあります。無理そうなきときは、あきらめましょう。「親の会」のアドバイスに「半径5メートル以内の人に理解してもらえばいい」という言葉があります。見ている人は見てくれている、ということなのです。

突然の欠勤によるダメージやそのリカバリーのために「親の会」の人たちはこんなことに気をつけていました。

- ① 仕事はできるだけ前倒しに進める
- ② 欠勤・早退にそなえて、周囲に仕事の状況や資料の所在などを知らせておく
- ③ 日頃から、自分の仕事は責任をもってやる
- ④ フォローをしてもらったら、お礼を言い、感謝の気持ちを伝える
- ⑤ 父親・母親で出勤を助け合ってダメージを最小限にする、残業や休日出勤でリカバリーするように努力する
- ⑥ 自宅でも仕事のフォローができるように、パソコンその他の環境を整える

仕事第一で無理をしなさいと言っているわけではありません。反対に、「仕事の調整をするのは管理職の仕事。何も調整しないで、個人の責任にするのはおかしい」という意見もありました。そのとおりだと思います。

政府は、2007年に「ワーク・ライフ・バランス憲章」を発表して、仕事と生活の調和を図っていく方針を強調しています。公務員の職場でも当然、これに取り組みることが求められています。働き手が無理なく仕事と生活を調和させていくことは、子育てのみならず、人間関係の充実、介護、自己啓発、地域活動への参加などのために必要と考えられているのです。

というわけで、誠実に働いて周囲の理解を得る努力は必要ですが、できない部分はしかたないという割り切りも必要です。心の中で「私の子どもが、みなさんの老後を支える」とつぶやいて（声に出してはいけません）、自分を責めないようにしましょう。

夫婦の協力的体制のつくり方

以前は、夫が妻に「家事や子育てにしろ寄せをしない範囲で働くならいい」と「許可」する関係もありましたが、今は、そんな一方的な考え方ではうまくいきません。男女ともに働く権利があるのは当然ですが、家計の安定も視野に、家族の形として共働きで子育てすることを決断したのであれば、家事や子育ての責任はふたりにあると考えべきです。

と言っても、男性が育児休業をとったり子どもの病気を理由に仕事を休んだりすることを、みんなが理解してくれない現実もあります。私自身、夫が上司に「子どもの病気で休むのは奥さんの仕事じゃないのか」

と言われて悔しい思いをしたことがあります。でも、そのころ（20年前）に比べて、男性が家事・子育てをする姿がどれほど世間になじんだことか。世の中は、どんどんスピードアップして変化しています。

さて、現実的な問題として、母親だけに家事・子育てが偏っていると、子どもにシワ寄せが行ったり、母親が体をこわしたりして、共働き子育てで生活が危機に瀕することも……。夫婦で共働体制を組むことが、今の時代の「家庭の守り方」なのです。

妻が育児休業をとっていると、夫には家事・子育ての具体的な姿がわからず、復職してからも「分担しようにも何をしたらいいのかわからない」「上手にできないから妻がやったほうがいい」というスタンスになりがちです。できれば復職前に、すでに両立生活が始まっている人は休日など余裕があるときに、分担を調整したほうがいいでしょう。

平日の朝から夜寝るまで、どんな作業があるのか整理して、どう分担すればうまく回るか作戦会議をするのもお勧めです（表2）。

うまい分担のコツとして「親の会」ではこんな助言がありました。

- ① 柔軟にできるほうができることをやる
- ② 「手伝い」ではなく担当作業を決めて主体的に責任をもってやる
- ③ 自分の得意分野を担当する

表2 家事・育児の夫婦分担の例

【家族で夕食をとれる平日の場合】

	妻 	夫 
6:30	起床。連絡ノート書きなど	起床。食事の準備。自分の食事
7:00	子どもと食事	自分の準備
7:30	自分の準備	子どもを保育園へ送る→出勤
8:00	家を出る→出勤	
~~~~~		
17:15	勤務先を出る	
18:00	保育園にお迎え	勤務先を出る
18:30	帰宅。食事の準備	
19:15	子どもと食事	帰宅。子どもと食事
20:00	後片付け	子どもとお風呂
21:00	子どもの寝かしつけ	洗濯。明日の保育園の準備
22:00	お風呂	
23:30	就寝	就寝

④相手のやり方にケチをつけない  
⑤お互いに感謝の気持ちをもつ

これが、なかなか難しい。「できるほうができることをやる」と言うをやつぱり妻に偏ってしまうとか、「相手のやり方にケチをつけない」と言っても、洗濯物をくしゃくしゃのまま干すのはやめてほしいとか。私は夫婦喧嘩もアリだと思います。どちらかが耐えていると、いつか大爆発になりかねません。伝えたいことは伝えたいほうがいい。

**働いていてよかった**

ただし、言ってはいけない言葉（相手の人格を完全否定する言葉など）は言わないように抑制をきかせ、なるべく子どもの前では争わない（これも難しいですね）ように心がけたところです。

長年、共働き子育て家庭を見てきて、また、すでにわが子が成人している私からは、「長いスパンで見る」ということもアドバイスしたいと思います。

長い子育て期間、夫も妻も仕事の状況や自分の健康状態などが変化します。子どもは成長するので、年齢に応じて親に求めるものも変わってきます。働き方も夫婦の分担も、その時々でできるようにやっていくというスタンスも必要です。

働いてきたママたちは、必ず「働いてきてよかった」と言います。先日「親の会」のイベントで、会社員生活29年というママがこんな話をしてくれました。

「娘は、小学生のころ散らかりまくった家がいやで、母親が働いていることをうらめしく思ったこともあったようです。でも先日、就職面接で『子どもが生まれても仕事は続けます』言い、面接官に『そんなことできると思っているんですか』と反問されて、『絶対にできます。私の親がそうしていましたから。私は親に負けないです』と言いつつ返したと聞いて、働き続けてきて本当によかったと思いました」

会場のママたちが深くうなずいた瞬間でした。

またこのイベントでは、「子育てのために同期より昇進・昇格が遅れて悔しい思いをしたが、いつの間にか差がなくなっていた」と話したベテランママが多かったのも印象的でした。

「今困っていることは、ずっと続くわけではない」ということも心におき、息の長い「共働き子育て」にチャレンジしてほしいと思います。